

數井 裕光

大阪大学大学院医学系研究科精神医学分野 講師

高齢者の幻視の発現機序と脳内基盤の解明のための研究

幻視の発現機序、脳内基盤を明らかにするために、レビー小体型認知症患者 19 例に対して、幻視をはじめとする精神症状と認知機能の評価を行った。また夜間の睡眠状態を照度計付きの加速度計であるアクチグラフを用いて評価した。さらに FDG-PET を用いて脳ブドウ糖代謝を測定した。これらの評価をアセチルコリンエステラーゼ阻害薬であるドネペジル投与前と投与 14 週間後に行い、幻視の改善と各検査結果との関係を検討した。ドネペジル投与により多くの患者で幻視は軽減し、夜間の睡眠状態、認知障害にも改善を認めた。そして幻視の改善と睡眠状態の改善とが関係した。また幻視の改善と右後頭葉、右辺縁系、および左前頭のブドウ糖代謝との関係が示唆された。以上の結果より、幻視の出現にはアセチルコリンの低下と睡眠障害が関与し、脳内基盤としては後頭葉、辺縁系、前頭葉の機能低下が関与する可能性があると考えられた。